

台湾限定、「走春」開運法！

今月は台湾の春節ということで、どこへ行ってもお祝いの雰囲気には溢れていました。春節期間中は、幸福を招き新年をより良い年にするための台湾ならではの数々の風習があり、この度は「走春」という風習をご紹介します。「走春」の「走」は歩く意味であり、「春」は台湾語の残るという意味を持つ「剩」と同じ発音であることから「歩ければ歩くほど手元にお金や良いことが残る」と考えられています。そのため春節期間中、特にお正月初日は親友へ訪問したり、お寺や観光スポットに赴き、会う人々に春節のお祝いの言葉をかけて自分自身の運気をアップさせるそうです。加えて「走春」は運気をアップさせるものだけではなく、政治家の人気度をチェックする一つのバロメーターにもなっています。なぜなら元々台湾には幸運な方から「何か」を頂くことができた場合、相手の幸福や運気を分けてもらえると考えがあるためその年の人気者や有名なお寺から



2月19日龍山寺での「柯文哲」台北市市長の「走春」。
多くの市民やマスコミ関係者に囲まれた光景。

さらに春節中のお寺では、神様に祈願する以外にも「銭母」を頂くことができます。「銭母」は文字通り「お金の母」の意味で、財運や商売繁盛を司る神様を祀るお寺においてコインや現金を用いて作られる財運アップの縁起物のことです。「銭母」を頂いた後は紅包や財布で保管したり、銀行口座に預けることでお金が次々と入ってくるという言い伝えもあります。但し現金の場合、神様から借りたお金として扱われますので、将来儲かった時が来たら必ず返さなければ

いけませんよ。

ら人気の縁起物であるお年玉や「春聯」*をゲットするため多くの方が押し寄せます。そのため2015年の人気市長「柯文哲」台北市市長と「賴清德」台南市市長のお二人は「走春」活動でどこへ行っても多くの方に囲まれるなど、まるでアイドルに負けない勢いで至る所に大行列ができました。

*春聯(縁起の良い言葉が書かれた赤い紙。ドア上部や入口の左右に張られることが一般的。お正月を迎える際に準備するものです。)



台北「松山慈惠堂」というお寺から頂いた「銭母」。
左は外観で、右は中身。